心肺蘇生法におけるガイドライン2020の運用を開始

本消防組合では、ガイドライン 2015 に基づき救命講習を実施しておりましたが、この度ガイドライン 2020 へ改訂され、2022 年5月から運用しています。

改訂内容については、以下のとおりです。

1. 反応の確認

傷病者に反応がない場合だけではなく、**反応の有無の判断に迷う場合**にも、119 番通報と AED の要請を行います。通信指令員から反応の有無の判断についても助言や指導を受けられます。

2. 口頭指導について

119 番通報時において、電話のスピーカー機能などを活用すれば、通信指令員の口頭指導を受けながら胸骨圧迫を行うことができます。

3. 呼吸の確認

普段どおりの呼吸があるかを確認し、判断に迷う場合には、胸骨圧迫による有害事象を恐れることなく、ただちに胸骨圧迫に移行します。

4. 人工呼吸の省略

吹き込みを 2 回試みても胸が 1 回も上がらない状況が続くときは、胸骨圧迫のみの心肺蘇生に切り替えます。

5. AED パッドの呼称変更

従来の「小児用パッド（モード）」を「**未就学児用パッド（モード）**」、従来の「成人用パッド（モード）」を「**小学生～大人用パッド（モード）**」に呼称変更しました。

6. オートショック AED について

電気ショックが必要な場合に、**ショックボタンを押さなくても自動的に電気が流れる機種「オートショック AED」**が 2021 年 7 月に認可されました。傷病者から離れるように音声メッセージが流れ、カウントダウン又はブザーの後に自動的に電気ショックが行われるため、音声メッセージなどに従って傷病者から離れる必要があります。

7. 気道異物の除去

気道異物による窒息は、早期に解除されなければ心停止に至りますので、救助者による迅速な処置が望まれることから、**手技が容易で害も少ない背部叩打法を最初に行う処置**とします。背部叩打法で異物が除去できない場合は、次に腹部突き上げ法を行います。

8. 新型コロナウイルス感染症流行期への対応

非流行期との相違点は下記のとおりです。

・ 傷病者に近づく前にマスクを着用します。

・ 反応、呼吸の確認をする際に傷病者の顔にあまり近づきすぎないようにします。

・ 胸骨圧迫する前にマスク、ハンカチ、タオル等で傷病者の鼻と口を覆います。

・ 成人の場合は技術と意思があっても人工呼吸を実施せず、乳児・小児の場合は技術と意思があれば人工呼吸を実施します。

・ 傷病者を救急隊に引き継いだあとは、すみやかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗います。

※ 心肺蘇生法の流れについては、こちら「応急手当 WEB 講習」をご覧ください。